

複数月平均 80 時間を超える教職員
0 人を目指して

働き方改革 通信

For everyone's Smile

第 8 号
令和 3 年 11 月
山形県教育庁

～現在 R3 年度の取組事例募集中です。～いち早く 11 月 16 日に応募いただきました。ありがとうございました。今回の募集は 12 月 15 日まで受け付けています。

○オンライン事例報告より

《鶴岡市立湯野浜小学校》

・年に一度、自分自身の働き方改革の目標を書いてもらい、それを短冊にしてラミネート加工したものを机の見えるところに掲示している。「週 2 日は〇時までには帰宅する。」などあまり欲張らず少し努力すればできそうなことにしている。自分で決めたことなので、意識して取り組むことができる良さがある。

《寒河江市立寒河江小学校》

・校務支援システムの活用により、児童の学びの記録を一括管理できるようになり、校内・学年内における児童理解が深まり、適切な指導に結び付いている。また、諸帳簿・諸統計と連携していることから、学期末・年度末の処理作業の効率化が図られた。

《鶴岡市立朝陽第五小学校》

・夏季休業中のプール開放を取りやめる。
・週 3 回は 5 時限にし、放課後にゆとりを持たせ教材研究等にあてる。
・全員参加と一部参加の会議を区別して運営。例として、いじめ防止会議・個別支援会議等は、該当学年ごとに入れ替えをして実施。

《米沢市立塩井小学校》

・時程・週日課の見直し。今年度、清掃の回数を減らすことにより、昼休みが長くなり、教師が子どもとふれあったり、ノートや課題点検をしたりする時間が増えた。

《天童市立天童北部小学校》

・学校文集をなくし、教育課程にあわせた「書く」指導と文章表現による作品の蓄積を行っている。それによって、担任が児童の文章をデータ化する作業が削減され、働き方改革につながっている。
・授業参観とその後の引き渡し訓練を土曜日に行っていたが、金曜日の午後に計画した。今年度（令和 2 年度）はコロナの影響で授業参観はできなかったが、引き渡し訓練のみ行った。教職員の土曜日勤務をなくすことができた。

《戸沢村立戸沢学園》

・簡単な事務連絡や調整は、グループウェアで行うことによって、児童生徒と向き合う時間や、授業準備・校務分掌の業務をする時間が増えた。

裏面に続きます。

学校における働き方改革～事例集～

地域の資源を十分に活用した地域移行を進めたことで、勤務時間の縮減が推進されました。



学校の取組事例⑦（中学校）

部活動改革による勤務時間の縮減（千葉県陸沢町立陸沢中学校） ～部活動ガイドライン遵守と部活動の地域と連携した運営～

陸沢中学校では、生徒の帰宅時間の早期化と、職員の超過勤務時間の縮減を目指し、部活動ガイドラインの遵守や地域資源を十分に活用した部活動の地域移行を進めながら、勤務時間の縮減を推進中。

部活動指導時間の見直し

- 部活動ガイドラインの遵守徹底
- 月曜日と第2・4木曜日は部活動は休みにし、15:20に完全下校
- 日課を見直し、放課後の始まる時間を25分早めることで、4月～9月の生徒完全下校時刻を17:30に（1時間）早期化

陸沢町の地域の資源

- 町の総合型スポーツクラブ（ふれあいスポーツクラブ）や総合運動公園（アリーナ、道場、プール、テニスコート、野球場、多目的広場等）の資源活用
- スポーツ関連団体連携会議を活用して、協議を開始。

地域と連携した部活動の運営

- 5つの運動部があり、地域や保護者の協力を得ながら部活動を運営。
 - ・剣道部は総合型スポーツクラブや外部の道場で活動
 - ・卓球部は総合型スポーツクラブから指導者が学校へ指導に入る
- 総合運動公園の施設利用については、利用料を減免（町措置）

スポーツ関連団体連携会議

- ・スポーツ推進委員
- ・体育協会
- ・ふれあいスポーツクラブ
- ・陸沢小学校
- ・陸沢中学校
- ・パークむつざわ
- ・まちづくり課
- ・教育委員会教育課

【陸沢町総合運動公園】

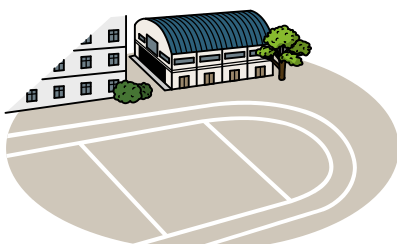
効果

- 在校時間一日一人当たり平日▲約1時間10分削減、休日▲約1時間30分削減
※令和元年度6月の一日当たりの在校時間平均の平成30年度同月との比較
- 部活動休止日を増やしたことで、勤務時間内に職員研修等が可能となった
- 指導を地域へ任せられることで、地域と学校との連携が深まった

顧問の複数・シフト制

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動担当2班体制を行い、一方は勤務時間終了次第退勤できるようにした。 ・ 部活動の顧問を2～3名で担当し、平日の1人の顧問が指導できる日数を週3日までとした。 ・ 部活動を複数顧問制とし輪番で部活動指導を行い、放課後の作業時間を確保している。
削減時間 <small>※担当1人あたりの目安</small>	<p>週1時間×年43週 = 43.0 時間/年</p>
事例提供校からの声	<h4>導入効果</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の裏で会議を同時に行うことができるようになった。 ・ 顧問同士が連携を図り、うち1人は教材研究や事務的な業務に専念する時間や休養できる日を確保できるようにしており、時間外勤務の縮減に繋がっている。
	<h4>課題・対応</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が自分で練習を進めるためのサポートが必要となる。また、指導に一貫性がなくなる可能性がある。 ▶ 練習メニューを作成したり、キャプテンを中心に活動できるよう指導をしたりした。

複数顧問制のあり方をさらに工夫・改善することで、教職員間の連携が深まり、放課後の時間が確保されるようになりました。



ガイドラインの徹底

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部活動の練習計画の閲覧およびガイドラインに沿った練習計画の浸透を行った。 ・ 前月のうちに部活動計画書を顧問に提出させ、管理職が点検する。 ・ 年間を通し、効果的な練習方法を取り入れ、ゆとりある部活動を計画的に実施する。
------	---

部活動に伴う休日出勤の振替を取れる時間割設定

部活動で休日出勤が多い教職員が振替休日を取れるように平日に授業がない日を設定しているという高校の教務担当の先生にお話を伺いました。

時間割の設定が難しいのではと思うのですが、どのようにされているのですか？

A. 今年度は3年生の授業がない3学期のみ実施しています。3学期だけであれば無理なく設定できています。来年度以降は、1,2学期にも取り入れるためにどのように時間割を組むべきか検討しているところです。具体的には、校務分掌の会議などをできるように、該当する部署メンバーの空きコマを揃えて設定していますが、会議自体を少なくして放課後に持ってくることで、その分、この取組に回せなかなど話しています。